

## 山形大学校友会専門委員会（第23回）議事録

平成29年5月31日(水)  
15時00分～16時25分  
山形大学法人本部役員会議室

### (議 題)

- 1 平成28年度事業報告、収支決算及び監査報告について
- 2 平成29年度事業計画及び収支予算について
- 3 校友会大学院学生表彰制度の一部見直しについて
- 4 校友会「学生幹事」の選出について
- 5 その他
  - (1) 校友会設立10周年記念「校友会のシンボルネーム又は愛称募集」への今後の対応について
  - (2) 平成29年度山形大学OB&OGセミナーの開催日程等について
  - (3) その他

### (出席者)

委員長：野村一芳

委員：佐藤圓治、齋藤博行、大場好弘、竹田隆一、神戸士郎、佐藤和佳子

### (列席者)

長岡エンrollment・マネジメント部長、斉藤エンrollment・マネジメント部EM企画課長  
大沼校友会事務局長、黒沼校友会事務局次長

議事に先立ち、事務局から、4月に理事の改選が行われたが、専門委員会委員が決定するまでの間は、慣例により旧委員で審議いただくことになっている旨説明があった。

引き続き、野村委員長から、次回の理事会提案に向けた検討は本委員会において行うことになっているため、本日の議事を進めさせていただきたい旨説明があった。

### 1 平成28年度事業報告、収支決算及び監査報告について

委員長から本件について提案があり、事務局から、「平成28年度事業実施状況一覧」、「平成28年度事業報告書（個別）及び「平成28年度収支決算書（案）及び監査報告」について資料1-1、資料1-2、資料2及び資料3に基づきおおむね次のような説明があった。

#### (内容)

- (1) 平成28年度校友会支援事業は全部で27件、資料1-2が個別に提出された実施報告書で、それらを一覧表に整理したのが実施状況一覧（資料1-1）である。
- (2) 実施状況一覧のうち、No.1、2、15、22及び24は12月までに終了した事業として、本年2月理事会においてすでに報告済みであるがNo.15は未実施であった。
- (3) No.1と24については使用済額に変更が生じ、本日訂正するものである。
- (4) 今回の報告から、各事業毎に「自己評価による達成度評価（5段階）」が導入された。
- (5) また、前回理事会の求めに応じて、各事業に対する専門委員会としての簡単な所見等を記入したので、ご覧いただきたい。なお、お気づきの点等があれば修正意見をお願いしたい。
- (6) 資料2が平成28年度の収支決算書（案）であり、収入が523千円程減、事業費は3,424千円、運営費も110千円程の残で、全体として3,534千円の残額があり、平成29年度への繰越額は6,212千円である。

- (7) 別途 2,000 万円は「校友会運営準備金」として積み立てている。
- (8) 5 月 16 日に丸山、寒河江の両監事による会計監査が行われ、特段の指摘事項等はなかった。

これに対し、おおむね次のような意見、要望等があった。

- 「実践教育プログラム英語合宿 (No. 9)」の事業は、昨年から参加人数は増えたのか。(佐藤 (圓) 委員)
- このプログラムはもともと 30 人程度で募集しており、希望者多数の場合は抽選で参加者を決定すると伺っている。ちなみに今年度の参加者は 24 名であった。  
(事務局)
- 当初の配分額を超えている事業が幾つか見られる。「校友会大学院学生表彰制度 (No. 23)」事業はこの委員会では了解を得て進めた経緯があるが、その他の取り決めなどはあるか。(野村委員長)
- 特段の取り決めはない。いずれのケースもやむを得ないものであったが、次回の理事会においては、その部分も含めて説明し全体として承認を得ることとしたい。  
(事務局)

種々意見の交換の後、委員長から本件について諮られた結果、原案どおり了承され、次回の理事会へ提案することになった。

## 2 平成 29 年度事業計画及び収支予算について

委員長から本件について提案があり、事務局から、「平成 29 年度事業計画書提出一覧」、「平成 29 年度事業計画書 (個別)」、「事業の検討に当たっての基本方針」及び「平成 29 年度収支予算書 (案)」について資料 4-1、資料 4-2、資料 4-3 及び資料 5 に基づきおおむね次のような説明があった。

(内容)

- (1) 平成 29 年度の申請は継続事業 19 件及び新規事業 15 件の合計 34 件で申請総額は予備費を含め 42,034 千円で前年と比べ大幅に増となった。
- (2) 平成 29 年度支援事業への申請は、資料 4-2 が個別に各機関から提出された事業計画書で、一覧表に整理したのが事業計画一覧(事業採択案を含む。(資料 4-1))である。
- (3) 収支予算書(資料 5)では収入総額が 26,114 千円、年々繰越金が減少している中でも、平成 29 年度は 2,000 万円を超えない範囲で事業費を確保したい。
- (4) 各事業の審査に当たっては、理事会で「平成 28 年度以降の基本方針」(資料 4-3)が確認されており、この方針を前提として総合的に判断したい。
- (5) 平成 29 年度継続事業として優位性を認めた 20 事業のうち、次の事業は申請がなかったため、審査外となる。
  - ・ 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会 (5 年目)
- (6) 継続事業である 19 件 (No. 1 ~ 19) の採択額は、前年度の実績を考慮するとともに、それぞれ前年度採択予算額の 10% 減を基本として算出したい。
- (7) 「博士課程学生研究発表奨励事業 (No. 4)」は、医学部と工学部からそれぞれ出されているが共同申請として扱う。
- (8) 「山形大学卒業生講演会 (No. 15)」は農学部鶴窓会様との共同開催とし、今年で 5 回目となる事業である。
- (9) 新規事業 15 件 (No. 20 ~ 34) については事業内容等も精査の上、8 事業の採択としたい。新規事業の採択又は不採択に当たっては、次のような観点を踏まえて精査した。

- イ 5年経過しても、引き続きその必要性が認められる事業かどうか。
  - ロ 長年支援を行い、一定の役割を終えたと思われる事業ではないか。
  - ハ 指導的立場にあった教員が退職され、事業実施に不安がないか。
  - ニ 大学や学部等において取り組むべき事業ではないか。
  - ホ 単一又は単独の学生を対象とした事業となっていないか。
- (10) 収支予算書の事業費欄には、「大学等への支援事業」と「校友会主体事業」に区分して計上する。

事務局からの説明後、委員長から、個別の事業及び事業全体について検討をお願いしたい旨提案があり、審議を行った。

これに対し、おおむね次のような意見、要望等があった。

- 今回、障がい学生支援センターから3件（No. 26～28）の事業申請があるが、「障がい学生に特化したキャリア支援（No. 28）」を採択する基準についてわかるが良いと思う。（佐藤（和）委員）
- 基本方針等も踏まえ、継続事業として認められている「就職やキャリア支援関係」と同等の障がい学生のキャリアを直接的に支援する事業を優先的に採択としたい。（大場委員・事務局）
- 新規に申請された事業については精査の上、No. 20、21、23、25、28、29、32及び34の8件を採択とし、No. 22、24、26、27、30、31及び33の7件は不採択としたい。

種々審議の後、委員長から本件について諮られた結果、次のとおり了承され、資料整理の上、次回の理事会へ提案することになった。

◆各機関からの申請分（◎印は、校友会が主体的に取り組む事業分である。）

事業 1	継続（260万円）	・・・前年度採択額から10%減（300万円→△40万円）
” 2	継続（180万円）	・・・前年度採択額から10%減（200万円→△20万円）
” 3	継続（180万円）	・・・前年度採択額から10%減（200万円→△20万円）
” 4	継続（135万円）	・・・前年度採択額から10%減（150万円→△15万円）
		（理工学研究科分 110万円・医学研究科分 25万円）
” 5	継続（25万円）	・・・前年度採択額から10%減（30万円→△5万円）
” 6	継続（35万円）	・・・前年度採択額から10%減（40万円→△5万円）
” 7	継続（60万円）	・・・前年度採択額から10%減（70万円→△10万円）
” 8	継続（100万円）	・・・前年度採択額から10%減（120万円→△20万円）
” 9	継続（90万円）	・・・前年度採択額から10%減（100万円→△10万円）
” 10	継続（60万円）	・・・前年度採択額から10%減（70万円→△10万円）
” 11	継続（20万円）	・・・前年度と同額
” 12	継続（60万円）	・・・前年度採択額から10%減（70万円→△10万円）
” 13	継続（25万円）	・・・前年度と同額
” 14	継続（20万円）	・・・前年度採択額から10%減（30万円→△10万円）
◎ ” 15	継続（25万円）	・・・前年度採択額から10%減（30万円→△5万円）
◎ ” 16	継続（80万円）	・・・前年度と同額
◎ ” 17	継続（15万円）	・・・前年度採択額から50%減（30万円→△15万円）
◎ ” 18	継続（90万円）	・・・前年度採択額から10%減（100万円→△10万円）
◎ ” 19	継続（40万円）	・・・前年度と同額

- 事業20 新規(採択)(50万円)…引き続き、競技を通じ学部間学生交流に大いに期待する。
- ”21 新規(採択)(80万円)…就活学生としての基本的態度の自覚とタイムリーな就活に繋げることに期待する。
- ◎ ”23 新規(採択)(110万円)…卒業生と大学や学生を継続して繋ぐ大事な事業である。
- ”25 新規(採択)(35万円)…現役学生による大学の情報発信プロジェクトとして期待する。
- ”28 新規(採択)(25万円)…障がい学生の就職支援の充実に繋がることを期待する。
- ”29 新規(採択)(30万円)…大学の教育機能を活用した地域との文化交流の推進に期待する。
- ”32 新規(採択)(30万円)…記念式典における卒業生のリレー講演を通じて卒業生、大学及び学生との交流が大いに広がることを期待する。
- ◎ ”34 新規(採択)(50万円)…今年度から導入した「学生幹事」の活動に期待する。
- ”22 新規(不採択)…長年支援を行い、一定の役割を終えたものと思われる。
- ”24 新規(不採択)…大学や学部等において取り組むべき事業だと思われる。
- ”26 新規(不採択)…大学や学部等において取り組むべき事業だと思われる。
- ”27 新規(不採択)…大学や学部等において取り組むべき事業だと思われる。
- ”30 新規(不採択)…大学や学部等において取り組むべき事業だと思われる。
- ”31 新規(不採択)…当該研究科において取り組むべき事業だと思われる。
- ”33 新規(不採択)…卒業生同士を繋げる一つの手段ではあるが、予算の確保は難しい。

予備費(80万円)・・・「不測の財源」として予算計上

事業費合計(1,990万円)

### 3 校友会大学院学生表彰制度の一部見直しについて

委員長から本件について提案があり、事務局から資料6に基づき次のような説明があった。

- (1) 前回の理事会において、表彰する範囲を「学部学生にも広げては」という意見があり、その対応について検討いただきたい。
- (2) 本表彰制度では被表彰者に表彰状と奨励記念品(5万円)を贈呈することを今後とも堅持したい。
- (3) 本表彰制度は、もともと医学部からの要望を受けて検討し導入されたものであり、顕著な学術研究活動を行った大学院学生に授与する校友会独自の制度としてスタートしたものである。
- (4) 学部学生を対象とする類似の制度は、「学生表彰」、「奨励表彰」及び「YU Do Best 奨学金」制度等、大学としてすでに整備されている状況にある。
- (5) したがって、当面、大学院学生を対象とするこれまでの方針は変更しないこととし、今回は、「校友会大学院学生表彰に関する申合せ」の文言の統一など必要な一部改正に止めたい。(資料6のとおり)
- (6) さらに、今後予算の範囲内で本制度を運用するとなれば、大学院研究科ごとに一定の枠を設ける必要もあるので、研究科の現員数を基に別添配分数を算出した案(席上配付)を事務的に作成したので、検討いただきたい。

事務局からの説明後、委員長から、本件について審議願いたい旨提案があり、おおむね次のような意見、要望等があった。

- 一定の予算配分額を前提とすれば、何らかの制限を加える必要がある。一方で、申請する大学院研究科側としては顕著な学術研究活動を行った優秀な大学院学生が多数いれば、単に推薦枠数で打ち切りではなく、順番を付けて推薦することも可能とすべきではないか。(神戸委員)
- 席上配付された資料は、本委員会が大学院表彰者を決定する場合の基準として捉え、仮に該当する研究科からの推薦がなかった場合には、予算上限の範囲内でその分を委員会として弾力的に運用してもらいたい。(神戸委員)
- 大学院学生表彰推薦に係る配分数の考え方については原則了解をいただき、申し合わせについても、条文を整理し次回の理事会にお諮りしたい。(事務局)

種々審議の後、委員長から本件について諮られた結果、原案どおり了承され、資料整理の上、次回の理事会へ提案することになった。

#### 4 校友会「学生幹事」の選出について

委員長から本件について提案があり、事務局から資料7に基づきおおむね次のような説明があった。

- (1) 本件は、校友会設立10周年を機に校友会に「学生幹事(各学部2名ずつの計12名)」を配置することとし、本年4月末までに学生の推薦を依頼していたものである。
- (2) 学生幹事には、校友会会員である学生に校友会諸活動のPRをはじめ校友会の事業運営等にも参画してもらうことにより、学生のさまざまな声を反映できる仕組みを作ることを目指したものである。
- (3) 各学部から推薦のあった学生幹事の名簿は資料7のとおりである。
- (4) そこで、選出された学生幹事を6月27日に開催する理事会において紹介するとともに、小山学長から一人ひとりに委嘱状を交付することとしたい。
- (5) 委嘱状交付の後には、簡単なミーティングを持ちたい。

説明の後、委員長から本件について諮られた結果、今後の進め方について確認され、次回の理事会においても了承を得ることになった。

#### 5 その他

委員長から、次の2項目について報告したい旨発言があり、順次、事務局から説明があった。

##### (1) 校友会設立10周年記念「校友会のシンボルネーム又は愛称募集」への今後の対応について

本件について事務局からおおむね次のような説明があった。

(内容)

- ① 本件は校友会設立10周年記念事業の一環として実施したもので、資料8は本件に係る募集案内(表)と応募作品の選考結果報告(裏)である。
- ② 応募作品の選考結果は、優秀作品賞が3名いたが最優秀作品賞は該当がなかったとしてすでに報告されている。
- ③ 前回の理事会において本件に係る今後の取り扱いについて質疑があり、本日、その対応についてお諮りしたい。
- ④ ついては、「本件については今回で一旦終了とし、しかるべき時期(例えば校友会設立20周年記念の事業など)において改めて検討することとしたい。

説明の後、委員長から本件について諮られた結果、今後の進め方について了承され、次回の理事会へ提案することになった。

## (2) 平成29年度山形大学OB&OGセミナーの開催日程等について

本件について事務局からおおむね次のような説明があり、次回の理事会に報告することになった。

(内容)

- ① 本件は平成30年3月3日(土)に、昨年度と同じ「グランパークカンファレンス大会議室(190人規模)」で実施予定である。(資料9のとおり)
- ② すでに、江頭宏昌教授(農学部担当)と松本大理准教授(地域教育文化学部担当)のお二人には、ご講演いただくことで内諾を得ている。
- ③ 今年度は新たな取り組みを追加し、2名程度の現役学生に活動報告をお願いし、卒業生OB&OGの皆さまに学生の元気とパワーを届けたいと考えている。
- ④ 山形大学のグッズ販売などもより盛大に実施したい。

## (3) その他

特になし

### 配付資料一覧

- 校友会専門委員会(第23回)次第
- 校友会専門委員会旧委員名簿(H29.5.31)

### [資料一覧]

- 資料 1-1 平成28年度事業報告一覧
- 資料 1-2 平成28年度事業報告書(個別)
- 資料 2 平成28年度収支決算書(案)
- 資料 3 監査報告
- 資料 4-1 平成29年度校友会事業計画一覧及び採択事業(案)
- 資料 4-2 平成29年度事業計画書(個別)
- 資料 4-3 校友会事業検討の基本方針(28.2.19 校友会理事会確認)
- 資料 5 平成29年度収支予算書(案)
- 資料 6 校友会大学院学生表彰に関する申合せの一部改正(案)
- 資料 7 平成29年度校友会「学生幹事」名簿
- 資料 8 設立10周年記念として実施した「校友会のシンボルネーム又は愛称募集」(募集案内及び結果報告)
- 資料 9 平成29年度山形大学OB&OGセミナーの実施概要

### [参考資料]

- 1 山形大学校友会会則
- 2 山形大学校友会専門委員会規程
- 3 校友会専門委員会第22回議事録(H29.1.26)
- 4 校友会理事会第21回議事録(H29.2.15)
- 5 山形大学校友会会報 No.9